

呼吸器センター 内科部門（呼吸器内科）

1. スタッフ（平成27年4月1日現在）

科 長（教 授）	杉山幸比古
副 科 長（准教授）	坂東 政司
病棟医長（助 教）	中山 雅之
外来医長（助 教）	中屋 孝清
医 員（講 師）	山沢 英明
	（講 師）間藤 尚子
	（助 教）佐多 将史
病院助教	鈴木 恵理
	中澤 晶子
	平野 利勝
	山内 浩義
	澤田 哲郎
シニアレジデント	7名

2. 診療科の特徴

1) 呼吸器疾患の専門科として以下の呼吸器領域の疾患を網羅し、一般診療から高度先進医療まで幅広い診療を行っている。

腫瘍性疾患：原発性・転移性肺癌、縦隔腫瘍など胸部悪性・良性腫瘍

アレルギー疾患：気管支喘息、好酸球性肺炎など

びまん性肺疾患：特発性間質性肺炎（IIP）、膠原病肺、過敏性肺炎、塵肺薬剤性肺炎、サルコイドーシス、びまん性汎細気管支炎（DPB）、肺リンパ脈管筋腫症（LAM）など

慢性閉塞性肺疾患（COPD）：肺気腫、慢性気管支炎

呼吸器感染症：肺炎、結核、肺真菌症、肺化膿症、膿胸、ニューモシスチス肺炎など

肺循環障害：肺血栓塞栓症、原発性肺高血圧症など

胸膜疾患：自然気胸、胸膜炎、胸膜中皮腫など

呼吸異常：睡眠時無呼吸症候群など

2) 呼吸器疾患全般の緊急医療体制を整備し、周辺医療施設からの救急搬送患者に常時対応している。

3) 最新の知見や技術を取り入れ、診断・治療に応用しており、主要機器として、ヘリカルCT、3D-CT、MRI、MRA、超音波診断装置、血管造影機器、ビデオ気管支鏡、気管支鏡下超音波診断装置、胸腔鏡、食道超音波装置、精密肺機能測定装置、アストグラフ、運動負荷検査機器、睡眠時無呼吸モニター（ポリソムノグラフィ）、気管支鏡下レーザー装置、高周波治療装置、気管支鏡下ステント留置、各

種人工呼吸器を常備している。

4) 呼吸器外科医、放射線科医などと連携を密にして集学的治療を行っている。また、年間約10例の剖検を病理学教室との連携のもと行い、CPCを通して、意見交換を行っている。その他、当教室で開催のカンファレンスとしては、手術症例カンファレンス、チャートラウンド、退院サマリーカンファレンス、抄読会、リサーチカンファレンスを週1回行い、専門医の育成に向けた討議が行われている。また、認定医、指導医を目指す若手医師には、積極的に日本呼吸器学会を中心とした諸学会や海外の学会での症例報告や研究発表の機会を与えており、その論文化にも力を注いでいる。

5) 慢性呼吸不全などに対する在宅医療では、地域医療施設との連携において普及、発展に努めている。

・認定施設

日本呼吸器学会認定施設

日本呼吸器内視鏡学会認定施設

日本アレルギー学会認定施設

・専門医

日本呼吸器学会専門医・指導医 杉山幸比古

坂東 政司

日本呼吸器学会専門医 山沢 英明

中屋 孝清 中山 雅之 鈴木 恵理 間藤 尚子

澤田 哲郎 澤幡美千瑠 水品 佳子 佐多 将史

山内 浩義 黒崎 史朗

日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医 杉山幸比古

坂東 政司 中屋 孝清 中山 雅之

日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 山沢 英明

鈴木 恵理 間藤 尚子 中澤 晶子 澤幡美千瑠

佐多 将史 山内 浩義

日本アレルギー学会専門医 中山 雅之

澤幡美千瑠

日本内科学会認定医・専門医 山沢 英明

黒崎 史朗

日本内科学会認定医 杉山幸比古 他15名

ICD制度協議会 インфекションコントロールドクター

杉山幸比古

American Thoracic Society Active member

杉山幸比古

坂東 政司

3. 診療実績・クリニカルインディケータ

1) 新来患者数・再来患者数・紹介率

新来患者数	1,194人
再来患者数	20,671人
紹介率	79.2%

2) 入院患者数(病名別)

病名	患者数
肺癌	608
肺炎・気管支炎	96
特発性間質性肺炎	59
胸膜炎・膿胸	27
気胸	19
特発性肺線維症	16
気管支喘息	12
サルコイドーシス	9
胸部異常陰影	9
縦隔腫瘍・悪性リンパ腫	8
気管支拡張症	7
悪性胸膜中皮腫	5
血痰・喀血	5
慢性閉塞性肺疾患	4
肺腫瘍	4
肺アスペルギルス症	3
肺胞蛋白症	3
胸水貯留	3
非結核性抗酸菌症	2
肺結核・肺結核後遺症	2
呼吸不全	2
肺動静脈瘻・肺動脈血栓塞症	2
肝膿瘍	2
その他	18
合計	925

3) 手術症例病名別件数

(びまん性肺疾患に対する胸腔鏡下肺生検を含む)

病名	患者数
肺癌	117
膿胸	4
間質性肺炎	3
気胸	2
胸腺腫	2
気管支瘻膿胸	1
縦隔腫瘍	1
胸膜腫瘍	1
肺良性腫瘍	1
アスペルギローマ	1
肺分画症	1
合計	134

4) 治療成績

5) 合併症例

6) 死亡症例・死因・剖検数・剖検率

死亡症例	患者数
肺癌	25
肺炎	10
間質性肺炎	8
特発性肺線維症	1
慢性閉塞性肺疾患	1
急性呼吸窮迫症候群	1
ANCA関連肺腎症候群	1
肝膿瘍	1
合計	48

剖検数：9件(剖検率18.8%)

7) 主な検査・処置・治療件数

気管支鏡検査	394例
経気管支肺生検	215例
気管支肺胞洗浄	65例
経気管支針生検	11例
内科的胸腔鏡検査	19例
睡眠時無呼吸症候群に対するPolysomnography	2例
胸部超音波検査	150例

8) カンファランス症例

1. バクタまたはペンタサで薬剤性間質性肺炎、DIHSをきたした1例
2. 悪性リンパ腫の自家移植後間質性肺炎の1例
3. Castleman diseaseのVATS例
4. 肺癌術後に間質性肺炎の増悪をきたした抗ARS抗体症候群の1例
5. ドグマチールによる薬剤性肺炎の1例
6. リンパ管腫が疑われたVATS症例
7. ステロイド治療を行うも再発・増悪をきたしたCOPの剖検例
8. アスペルギルス感染をきたしたNSIPの剖検例
9. IPF急性増悪の剖検例
10. OP様陰影を呈したミクリッツ病の経気管支肺生検例
11. シェーグレン症候群と肺胞蛋白症の合併例
12. びまん性胸膜肥厚とOPを認めた1例

4. 事業計画・来年の目標等

当科は肺癌患者さんも多く、きわめて多忙だが、来年度も医療安全に力を入れて、各種肺疾患の最先端の治療を行うのが目標である。